

人権教育だより

京丹後市立大宮中学校

令和元年 12月 11日

～自分も仲間も大切にできる思いやりの心を育てよう！～

No.8



大宮中学校 人権意見発表会 & 講演・体験会

人権のつどい

12月4日
5・6校時

大宮中学校では、1学期は「いじめ」について、2学期は障がいのある人やパラリンピック（2年生）について学習しました。その学習での学びを、作文としてまとめました。その中から各学年、わかびな学級を代表して1名ずつに、自分の考えを発表してもらいました。そのあと『夢に向かって～車いすバスケットと私～』と題して、阪根泰子先生に車いすバスケットボールを教えてください、お話を頂きました。全校のみなさんにとっては、障がいのある方を含めた全ての人の人権について、自分の生き方について、ひいては社会の在り方について考える機会となったことと思います。ほんの一部になりますが、どんなことを考え、そして学んだのかを紹介します。

第1部 人権意見発表会

《発表の要旨》

僕は障がいのある人との関りを描いたDVDを見て、人を見た目だけで判断せず、いろいろな視点から見るのが大切だということに気づかされました。

一つ目の学びは、人とかかわる中で大切なのは、「心」の持ち方です。二つ目は、障がいのある方といろいろなことで、歩みを合せることです。三つ目は、人は手助けをし合うことは、当たり前のことであり、大切なのは周りの人がどう支えるかです。四つ目は、人は性格や考え方、成長の早さなどは違うけど、そのことを認めることです。五つ目の学びは、誰にでも心はあるということです。これからの生活の中で、僕も相手のことを考えて、いろいろなことに心を込めていきたいと思います。この五つの学びを日々の生活に取り入れて、誰とでも支え合って生きていきたいです。

1年生 安達 仁一郎くん
「五つの学び」



《発表の要旨》

「Impossible（不可能）」にアポストロフィーを加える、つまり工夫を加えたり、考え方を換えたりすることで「I'm POSSIBLE（可能）」という肯定的な言葉になります。これが、パラリンピックの理念であり、僕の心に強くささりました。また、パラリンピックの価値である勇気、強い意志、公平、インスピレーションは、障がいの有無にかかわらず誰にとっても同じであると分かりました。僕が今回の学習で感じたのは、障がいのある人を「障がい者」と

※裏面に続く

2年生 大河 悠晟くん
「世界一の祭典と世界一の努力」



いうくくりで特別扱いすることと、配慮をしながら平等に生活することは、大きく違うということです。誰もが人権をもつ一人の人間であることを、絶対に忘れてはいけません。

パラリンピックは、決してオリンピックのサブ的な大会ではありません。障がいに向き合い、苦勞を重ね、努力し続け、人に愛された人々が集まり、競い合う世界最高峰の国際大会です。この大会が人々に与える感動は、間違いなく世界一です。僕たちのできる精一杯の応援をオリンピックに、そして、パラリンピックに届けましょう。

《発表の要旨》

私は中学校に入学して、大切な友達ができました。その友達はいつも私のことを気遣ってくれます。交流学級でも部活動でも声をかけてくれます。私が合唱祭や体育祭の行事をやり切れたのも、部活動の厳しい練習に耐えられたのも、友達がそばにいてくれたからです。私のことをいつも気遣ってくれたり、声をかけたりしてくれてありがとう。私の友達は、私がわかびなだからという特別な感じではなく、みんなと同じように接してくれました。本当に嬉しかったです。

大宮中学校で生活するのも、あと残り四か月です。積極的に自分から友達に声をかけられるようになりたいし、友達との絆を深めたいです。勉強する教室は違っていても、それぞれの進路実現に向かって、支え合い、励まし合って、勉強をがんばっていきたいです。私に声をかけてくれた友達に、ありがとう。



3年生 松本 玲奈さん
「仲間とともに」



3年生 中山 寛大くん
「一人ひとりが違うからこそ
できること」

《発表の要旨》

僕は今までの人権学習の中で、一番いじめについての学習が心に残っています。いじめは当事者だけでなく、構造化されているということです。僕の経験から、何をすればいじめが起こらなくなるのか考えたところ、相手のことを多方面からたくさん知ることだと思います。課題は誰にでもありますが、その課題を陰口やいじめという形にしてしまてはいけません。相互関係の中で、良いところは認めたり尊重したりすることが大切です。

また、僕たちは三年生の人権学習で、視覚に障がいのある人のことを学びました。その後の交流会では、会話がどんどんはずみ、明るい障がい者の方に、今までの障がい者は暗いというイメージや見方が大きく変わりました。

この経験から、知らないことがいじめの元となる偏見や差別を生み出すということを実感しました。だからこそ、偏見をなくす、つまり相手を知ろうとすることが大切であり、いじめをなくすことにつながると考えます。まずは、自分から相手のことをたくさん知れるようにしたいです。一人ひとりが違うからこそ、毎日が面白いのです。みんなが面白く、笑顔でいられるよう、違いを大切にしていきたいです。

参加された保護者の感想 —寒い中でしたが、参観いただき、ありがとうございました—

★生徒発表、講演と貴重な機会をありがとうございました。自分自身の考え方を見つめなおすよい機会となりました。